

令和7年度

福井中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生徒自らの言葉で説明する表現力の育成
- 基礎学力定着のための家庭学習習慣の確立

学校長

学力向上推進

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や校内研修等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○落ち着いた学習環境のなか、前向きに学習に取り組む生徒が多く、与えられた課題をまじめにこなそうとする。 ●授業への集中力が十分でなかったり、作業の取りかかりに時間がかかったりする。基礎学力の定着に差が見られ、家庭学習時間がやや不足している。	①授業で学習した基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることができる。 ②家庭学習の時間や内容を充実させることによって、基礎基本の定着を図ることができる。	①小規模校の特性を生かし、複数教員による個に応じたきめ細かい指導に努める。 ②自主勉強ノートの使い方等を指導し、優秀作品を紹介することで、手本を示す。	家庭生活時間の調査から、生徒自らの生活習慣の振り返りと家庭学習時間や内容の見直しを図る。		

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業では、友達の意見をしっかりと聞いたり、自分の思ったことなどを文章に表現して伝えたりすることが比較的抵抗なくできている。 ●多くの生徒が、集会等の人前で発表することを不得意としている。自分の考えを筋道を立てて説明したり、既習事項を活用して考えをまとめたりすることに課題がある。	①自分の思いや考えを、理由や根拠を示して発表することができる。 ②読書・新聞・タブレット等を通して、世の中の出来事に関心を持ち、表現の仕方や工夫を自分の表現に生かすことができる。	①すべての教科で、言語活動を意識した授業を工夫し、ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動の機会を設定する。 ②全校読書や全校読み聞かせを実施するとともに、新聞への関心を持たせるために、新聞記事への感想を書き、全校生徒が共有できる場を持つ。	引き続き、すべての教科において、タブレット等を使って自分の考えを発表する機会を設定する。		

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○素直であり、与えられた課題に対して、一生懸命取り組むことができる。また、宿題等の提出率もよい。 ●与えられた課題の他の学習に主体的に取り組もうとする態度や、自ら課題を見つけて疑問に思ったことについて追究しようとする意欲が、やや乏しい。	①学習課題を自ら設定し、主体的に活動に取り組むことができる。 ②自分の学習状況を振り返り、自らの課題解決に向けて学習内容を選択し、実践することができる。	①生徒が主体的に行動できるような体験活動等の機会を多く取り入れ、生徒自身が活動を振り返り、次への目標を考える時間を設定する。 ②ミライシード・ドリルパーク等を活用して、主体的な家庭学習の定着を図る。	引き続き、ミライシード・ドリルパーク等を活用して、宿題以外の主体的な家庭学習を推進する。		